



袴田巖さん

写真：袴田さん支援クラブ

冤罪に苦しむ人を 助けてください

無実の人びとを救おう
全国いっせい宣伝行動 2024 春

冤罪を生む「自白」重視の捜査と裁判

罪を犯していない人が、「犯罪者」として処罰される冤罪事件が社会問題になっています。警察が証拠をでっち上げ、検察が無実を示す証拠を隠し、裁判所が科学的証拠よりも自白を重視して判断するため、無実の人に間違った有罪判決が出されます。

その典型が 58 年前の「袴田事件」です。みそ工場の経営者一家 4 人が殺害され、警察は元ボクサーへの偏見から従業員の袴田巖さんを逮捕。暴行し、水も与えず、18 日間で平均 12 時間を越える「取調べ」で追い込み「自白」させました。嘘の自白が証拠となり袴田さんは死刑判決が確定し、約 48 年間拘置所などに収容されました。

有罪判決のために警察が証拠をねつ造

転機は 2014 年。間違った裁判のやり直しを求める再審請求の裁判で、有罪の根拠だった犯行時の着衣が、警察が捏造したものと判明しました。裁判所は、裁判のやり直しを決めると同時に無実の可能性が高い袴田さんを死刑台のある拘置所から釈放しました。2024 年 5 月現在、静岡地裁でやり直しの裁判がおこなわれています。

再審をひらく起点になった市民の活動

袴田事件の再審の道を開いたのは、弁護団と支援者がおこなった犯行時の衣類のみそ漬け再現実験でした。犯行直後に味噌タンクに投げられたはずの衣類が、実は発見直前にみそに漬け込まれたものであることを実験で証明しました。市民の裁判支援活動が、弁護団の法廷闘争と相まって袴田さん救済の道を開きました。

市民による宣伝、署名運動、裁判所要請、現地調査...その活動が、絶望の淵にある人々を励まし、裁判官の良心を奮い立たせ、公正な判断をする後押しになります。あなたも、この運動に参加してみませんか。

衝撃! 袴田事件の証拠捏造

有罪の証拠



血痕が赤く不自然

弁護団実験



化学反応で黒色に

本当は

有罪の根拠は、袴田さんが事件直後にみそタンクに隠したとされた血の付いた衣類（左）。しかし、衣類を一年以上みそに漬けると血痕は黒くなりシャツはみそ色に染まる（右）ことが実験で判明。東京高裁は捜査機関の証拠ねつ造と断言した。

無実の人を救済しようとして各地で行われる支援運動



冤罪で苦しむ人を生まない社会に

滋賀・日野町事件

再審の可否、最高裁が近く判断

1984年に滋賀・日野町の強盗殺人事件。警察に「娘の嫁ぎ先ガタガタにした」と脅された阪原弘さんが嘘の自白を強要された。刑期中に75歳で死亡。遺族が再審請求。検察が隠した証拠が開示され、捜査報告書等の捏造が判明。地裁、高裁で再審開始。現在、最高裁。



阪原弘さん

(刑期中に75歳で死去)

都合よく変えられた有罪の根拠

	通常審	自白	間接証拠
一番	有罪	× 信用できない	○ 信用できる
二審	有罪	○ 信用できる	× 信用できない
再審請求			
地裁	再審開始	× 信用できない	× 信用できない
高裁	再審開始	× 信用できない	× 信用できない
最高裁	?	?	?

鹿児島・大崎事件

再審開始3回決まるも取消され

1979年に鹿児島・大崎町で男性の遺体が見つかり、警察が知的障害のある男性の親族を取調べて自白を強要。原口アヤ子さんを主犯格とした身内の犯行に仕立てた。懲役10年を満期で出所し再審請求。再審開始が3度出されるも取り消され、現在は最高裁で審理中。



原口アヤ子さん
(96歳)

再審開始のたび検察が抵抗

第1次再審	地裁	再審開始
	高裁	再審取消
第3次再審	地裁	再審開始
	高裁	再審開始
	最高裁	再審取消

冤罪事件の悲劇を防ぐには、間違った裁判を検証し、やり直す再審制度の抜本改正が必要です。その実現に向けて大きく動いています。

この春、国会議員連盟が発足

再審法改正への運動と機運が高まる中で、3月11日、超党派の国会議員による「えん罪被害者のための再審法改正を早期に実現する議員連盟」が発足しました。4月26日時点で衆参237人の議員が参加しています。

266地方議会が国に意見

地方自治体から国に対し、再審法改正を求める意見書が266議会で採択されました。都道府県レベルでは北海道、岩手、群馬、山梨、静岡、三重、京都の7道府県議会で採択。大きなうねりが全国に広がりつつあります。

誤判救済へ再審法改正の実現を

私たちが求める改正項目



再審のための
全証拠を開示



検察官による
不服申立禁止



公正な再審へ
手続き整備を

無実の人びとを救おう 全国いっせい宣伝行動

冤罪事件の再審開始の要件を広げ、誤判救済に道を開いた1975年の白鳥決定（最高裁）にちなみ、毎年5月20日と秋を中心に、国民救援会とさまざまな冤罪事件の支援団体が共同で、全国いっせいに宣伝行動にとりくんでいます。

支援事件

●秋田・大田市事件 ●山形・明倫中裁判 ●宮城・仙台北陵クリニック筋弛緩剤冤罪事件 ●栃木・今市事件 ●東京・三鷹事件 ●東京・乳腺外科医師冤罪事件 ●東京・小石川事件 ●長野・冤罪あずさ35号窃盗冤罪事件 ●福井・福井女子中学生殺人事件 ●静岡・袴田事件 ●静岡・天竜林業高校成績改ざん事件 ●愛知・豊川幼児殺人事件 ●三重・名張毒ぶどう酒事件 ●三重・鈴鹿殺人事件 ●滋賀・日野町事件 ●京都・タイムスイッチ事件 ●京都・長生園不明金事件 ●大阪・虐待冤罪今西事件 ●兵庫・えん罪・姫路花田郵便局事件 ●兵庫・えん罪神戸質店事件 ●岡山・山陽本線痴漢冤罪事件 ●高知・高知白バイ事件 ●福岡・飯塚事件 ●熊本・菊池事件 ●鹿児島・大崎事件 ●米・ムミア事件

日本国民救援会

1928年創立の人権NGO。戦前、侵略戦争に反対し治安維持法で弾圧された犠牲者の救援をおこない、戦後は冤罪事件や市民の権利を守る裁判を支援している。



再審・えん罪事件全国連絡会

1973年、冤罪で苦しむ人びとを救うことを目的として、作家の松本清張氏や佐野洋氏などの呼びかけで結成された。事務局を日本国民救援会におく。

